

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患トータルケアに資する人材育成等に関する研究
～コロナ禍における肝炎医療コーディネーター活動と北陸3県の実情～

研究分担者 野ツ俣和夫 福井県済生会病院 肝疾患センター長、副院長

研究要旨

【背景】福井県では、肝炎医療コーディネーター（Co）活動を拠点病院と県の協働で行ってきたが、新型コロナウイルス感染症蔓延以来、人集合型事業や県との協働が不能となり、独自に非集合型の方法の確立、実践が必要となった。また北陸3年のコロナ禍におけるCoの実態が不明となり把握を要した。【方法】福井県におけるCo活動の柱である①診療従事者研修会、②市民公開講座、③肝炎医療Co養成研修会、④ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会につき、非集合型の方法を発案し実行した。さらに⑤非ウイルス性肝疾患に対するCoの活動方針を模索した。また、北陸地区3県のCoの人員配置状況、活動状況を調査した。【結果】①診療従事者研修会は、完全WEB形式にし、4回（年3回）講演会を開催した。②市民公開講座は、2回（年1回）ケーブルテレビの番組を制作し放送した。③Co養成研修会は、2回（年1回）基礎講義はYoutubeで配信して事前視聴とし、実践の研修をZoomを使用してLIVEで行った。④ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会は、レクチャー動画を制作し、ホームページ掲載および希望者へのDVD配布をした。⑤非ウイルス性肝疾患である脂肪肝患者の受検、受診、受療推進におけるCoの関わりを研修会で示した。北陸3県（福井県、石川県、富山県）とも、Coは県内全地区で多職種が配置されており、非集合型の活動を行っている。【結語】コロナ禍における非集合型のCo活動を確立し実践し、非ウイルス性肝疾患に対するCoの取り組みを示し、北陸3県のCoの実態把握がなされたが、非集合型での経験を活かし今後可能になると思われる集合型活動と組み合わせさらに発展させることが重要であると思われた。

A. 研究目的

肝炎医療コーディネーター（Co）がウイルス性肝炎患者の受検、受診、受療推進に多大な貢献をしていることは周知の事実である。特に、C型肝炎は撲滅に向けてさらに積極的なCoの取り組みを進める予定であったが、2020年春以来の新型コロナウイルス感染症蔓延のため、主力である人が集まり直接行う活動が出来なくなり、活動が暗中模索に陥った。また、県はコロナ対策に追われ活動不能になった。しかし、Co活動の停止は認められず、

独自に非三密型非接触型の方式に変更しての活動を確立して実践することとした。また、非ウイルス性特に脂肪肝関連肝疾患がコロナ禍でさらに増えており、Coの関わりがウイルス性肝疾患と同様に必要となっており早急に示す必要がある。コロナ禍において不明瞭になっている北陸3県のCo活動実情を把握し問題点を抽出する必要がある。これらのコロナ禍によるCo活動の障害に対する対策、現状把握が必要と考えられ研究を行った。

B. 研究方法

啓発事業の中心である、①肝疾患診療従事者研修会、②市民公開講座、③Co 養成研修会、④ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会の4つを、非集合型の方式に変更して実践した。さらに啓蒙範囲拡大ため、新たな取り組みを発案し実践した。非ウイルス性疾患脂肪性肝疾患に対する Co の関わりを研修会で示した。北陸地区の全体の Co の現状把握のために、福井県、石川県、富山県の Co 人数、配置状況、Co 活動の実情を調査した。

C. 研究結果

I：非集合型方式の確立、実践

① 肝疾患診療従事者研修会は、福井県の肝疾患診療従事者からの一般講演と著名な講師を招いた特別講演さらに県および拠点病院からのお知らせというこれまでの形を踏襲したが、Zoom を使用した完全 WEB 形式で行った。県内肝疾患診療従事者に広く事前登録のお知らせをし、登録者に URL を送り、LIVE で行った。2020 年 11 月より 4 回（年 3 回）施行したが、受講者は毎回約 150 名前後で、これまで遠方や、診療中といった事情で会場に行けなかった先生方の参加があったことは大きな利点であった。ログイン時間、ログイン後退出までの時間の把握は可能であるが、講演途中にキーワードを入れたり講演後アンケートを行うなどの工夫を行って、実際に視聴していただけるように工夫をする必要があると思われた。

② 市民公開講座は、高齢の方は WEB 視聴が困難であることを予想して、福井ケーブルテレビの番組制作を行った（2 回施行。年 1 回）。テーマは分かり易いものとして（“生活習慣と糖尿病と肝ぞう～生活習慣病が肝ぞうの大敵！～” “肝ぞうか知れば知るほどおかしろい！食とかんぞうのすごい関係”）医師、看護師、検査技師、管理栄養士、理学療法士からの講義を、番組司会者とのイン

タビュー形式で行った。2 回目は途中で特別講師の講演を番組内に挿入した。視聴者が楽しく学べるようにクイズコーナーも企画した。放映は複数回にわたり行った。1 回目は県内の一部の地区の放映であったが、2 回目は県全体の地区で行った。

③ Co 養成研修会は、長時間の WEB 視聴は困難と予想し、初心者対象の養成研修は、講義を事前に収録し Youtube で一定期間オンデマンド視聴していただき、当日は 2 時間の Zoom を使用した LIVE ウェビナーでコーディネーター活動の実践に関する研修を行った（2 回施行。年 1 回）医師の参加が増え、遠方の方の参加もみられた。また、WEB の一方的な講義はながら視聴や集中力の問題があるため、途中 Zoom の投票機能を使ってアンケートをとりながら進めることで双方向性を高めるようにした。終了翌日に自動送信するフォローアップメールに試験問題へのリンクを貼り、期日までに解答、基準を満たした者に認定証、バッジを提供した。2022 年 2 月 25 日にコーディネーターフォローアップ WEB 研修を、Zoom のブレイクアウトセッション機能を使ってグループディスカッション形式で行った。十分なディスカッション、意見の共有が可能であり、きわめて有意義な会となった。

④ウイルス肝炎患者拾い上げ講習会は、福井県の 10 地区医師会ですべて行う予定であったが、感染症蔓延以来出来なくなり、講習の内容と同じ 5 テーマのレクチャー動画を作成し、拠点病院ホームページより視聴可能とした。県内の全医療機関に案内をし、希望する医療機関には、DVD を送付した

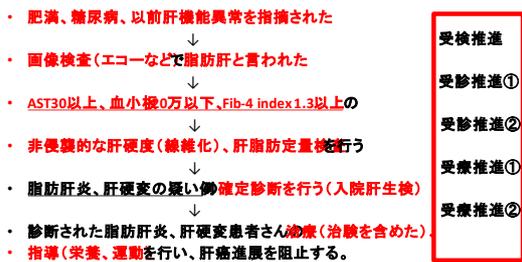
これらの取り組みの他に、ウイルス肝炎診療啓発範囲を、社会的弱者すなわち高齢者、被介護者など自分で病院に行けず診療

が受けられない介護者が必要な方々へも広げるために、介護者の会（地区、県全体）で被介護者への受検受診受領の必要性を講義した。被介護者の方々には未検、未療の方が多いことが予想され、介護者の積極的な協力の推進がこれからの重要な取り組みのひとつであるとする。

II：非ウイルス性脂肪性肝疾患に対する Co の取り組みの推進

Co 養成研修会の中で、非ウイルス性の脂肪性肝疾患に対する Co の関心を高めるために講義を行った。基礎的な知識の講義とともに、脂肪性肝疾患の方への受検、受診、受領推進のための関わり方を提案した。

脂肪肝患者さんの診療流れにおける コーディネーターの関わり①



脂肪肝患者さんの診療流れにおける コーディネーターの関わり②

- 受検推進** 肥満、糖尿病、以前肝障害歴のある方**血液検査を勧める**
看護師、放射線技師
- 受診推進①** 脂肪肝と言われた方**血液検査を勧める(かかりつけ医)**
看護師、検査技師
- 受診推進②** 脂肪肝で血液検査異常のある方**精密検査(フィブrosキャン、MREなど)を勧める(専門医)**
看護師、放射線技師
- 受療推進①** 上記検査の結果、慢性肝炎、肝硬変疑いの方**院内精密検査(肝生検)を勧める(専門医)**
看護師、事務
- 受療推進②** NASHと診断された方に**治療(治療を含めた)案内、指導(栄養運動)案内**をする
薬剤師、栄養士、理学療法士、看護師

肝疾患診療において、主力になりつつある脂肪性肝疾患診療の充実が重要となっており、これからの脂肪性肝疾患診療における Co の活動がきわめて重要であるとする。

III：北陸3県の Co 人数・配置状況と活動

●福井県：2021年12月時点で、把握されている Co は293名である。2次医療県別では福井・坂井地区に偏りがあるが、職種別では。行政機関職員17名、医療機関職員214名、薬局薬剤師26名、健診・健保職員13名、企業など職員23名で、県内全地区にわたっている。Co 活動状況はアンケートを行い Co 活動6項目について調査した。回答率は低いが各項目約40%の達成率であった

福井県コーディネーター活動状況アンケート結果(令和度)



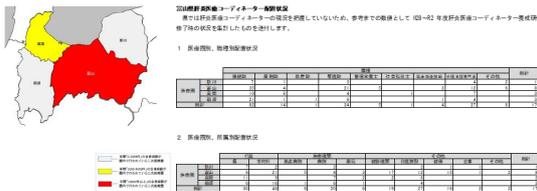
●石川県：2021年12月時点で238名が把握されている。2次医療県別では、石川・中央で約半数を占めるが、職種別では看護師62名、薬剤師10名、管理栄養士11名、MSW34名検査技師2名、保健師70名、事務系46名とまんべんなく全職種に見られた。活動状況は細かく調査されたが、約20%までの施行状況であった。

石川県の2次医療圏別コーディネーター配置・活動状況



●富山県：2021年12月の時点で176名の Co が把握されている。2次医療県別では富山地区が半数を占めるが、職種は、保健師82名、薬剤師14名、看護師34名、管理栄養士5名、健診業務者19例、介護施設関係者27、行政78名、健診関連25例であった。活動報告は検討されていなかった。

富山県の2次医療圏別コーディネーター配置状況



D. 考察

新型コロナウイルス感染症蔓延は、Co活動に多大な影響を及ぼした。すなわち活動の主力であった人集合型の診療従事者研修会、市民公開講座、Co養成研修会、講習会が出来なくなり、きわめて重要である県との協働活動が、感染症対応に追われ不能となった。しかし、肝疾患患者さんの健康を害することは許されず、福井県でも非集合型非接触型の活動を模索し実施した。WEBを利用した研修会、ケーブルテレビを利用した市民公開講座、Youtube・WEB機能を駆使したCo養成研修会、DVD、ホームページを利用した講習会を立案し、実行し、方法を確立した。いずれも診療従事者や市民には一定の良い評価を得ている。しかし、会を重ねるごとに、一方的な情報提供に終わり双方向性の意思疎通や深いディスカッションが困難であることが問題として浮かんできた。いまだに感染症蔓延に対する対応に追われ県との協働が不能であり、他施設や他県との交流が出来ず、独自の試みに終わり、発展性が乏しいことも問題と考えられた。face to faceの会の重要性を新ためて理解出来た。一方で非接触型の手法により、遠方や多忙で集合出来ない方々の参加が可能になり、気軽に参加出来るという利点も実感出来た。またWEBの新たな機能を用いた進化した活動もさらに可能性があるものと考えられた。今後、感染症が落ち着いた後は、双方の利点を生かし欠点をカバーして融合したCo活動を行っていくことが肝要と思われた。

ウイルス肝炎は治療の発展とともにこれ

までのCoの献身的な啓蒙活動により目の前の肝炎ウイルス罹患者は極めて減少したことが実感される。しかし、一方で病院に出来ない高齢者や被介護者などいわゆる社会的弱者に対する啓蒙や診療は進んでいないことが予想される。介護者の協力が必要であり、介護者への啓蒙を進め、積極的に高齢者や被介護者の診療を進めるために、介護者を対象とした講演会や研修会の実施を開始した。今後さらに進めていく予定である。

非ウイルス性、特に脂肪性肝疾患が急激に増加しており、Coが関わる必要性が出てきている。ウイルス肝炎患者同様、受験、受診、受領の促進を行うために今回、脂肪性肝疾患診療アルゴリズムの中で、Coが関わる方法を提案した。これからのCo活動の主力になっていくものと思われ、Coは、脂肪性肝疾患患者さんに正しい啓蒙を行うために、脂肪性肝疾患の理解を深めるとともに、関わり方の技術を取得する必要があるものと思われた。

北陸3県のCo配置状況は、一部中央市部に偏っているものの全県に広がっており、職種も全職種に及んでいる。さらに多数の診療従事者に養成会に参加していただきCo配置の充実を図っていく必要がある。しかし、実際の活動は、やはりコロナ禍の影響で困難となっている。一部のアンケート調査では、活動状況は半分に満たない結果であった。また、活動内容の把握も、アンケート調査に留まっており、実際の現場での活動把握がなされていない。これは、コロナ禍が収まった後には必要と思われる。3県間の連絡、交流、ディスカッションを行っていきたいと考えていたがまだ実現していない。北陸地区全体のCo養成推進、レベルアップ、どこでも実行が可能な模範的な研修方法や実際のCo活動方法の確立を行う必要があるものと思われた。

E. 結論

コロナ禍の中、非集合型の手法を確立し、実践することが可能であった一方、非集合型の課題も明らかとなったが、今後非集合型、集合型の双方の利点を生かし、進化した Co 活動を行っていくことが肝要である。また、Co による啓蒙範囲の拡大や非ウイルス性疾患への関わりを進めていく必要があるものと思われた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他